

水素 (可燃性ガス 無色・無臭)

分子式	H ₂	分子量	2.0	容器の色	赤色
用途	燃料、電子工業、化学製品原料等				
該当法規	高压ガス保安法、消防法、労働安全衛生法				
物理的性質	<p>あらゆるガスの中で最も軽く、最も拡散しやすい。</p> <p>可燃性の無色、無臭のガス</p> <p>比重：0.07 (空気より軽い)</p> <p>爆発範囲(空気中)：4～75% (爆発範囲が極めて広い)</p> <p>発火温度：572</p>				
化学的性質	<p>着火エネルギーが非常に低く、漏洩した場合、静電気等でも容易に着火する。</p> <p>燃焼時の炎は無色であり眼で見分けにくい。</p> <p>酸化剤と活発に反応する。特に塩素との混合ガスに光を当てると常温でも激しく反応する。</p> <p>高温・高压下で炭素鋼を脆化させる。</p>				
注意事項	<p>使用にあたっては通風のよい場所で行い、火気には近付けない。</p> <p>直射日光に曝さない。</p> <p>引火性、発火性のものを周辺に置かない。</p> <p>換気、通風を良くしてかつ、閉鎖場所では取り扱わない。</p> <p>酸化性物質とは区別して保管する。</p>				

水素 (可燃性ガス 無色・無臭)

事故時の措置

消火方法	粉末消火器、大量の水	処理剤
漏えいしたとき	<p>バルブを閉めるなど、漏えいを止める。</p> <p>容器からの漏えいが止まらない場合は、周囲に火気のない通風のよい場所に移動する。</p> <p>施設からの漏えいが止まらない場合には、通風をよくして火気を断つ。事故の発生を大声で告げ、避難させる。</p> <p>119番(消防署)に通報する。</p>	
火災のとき ・ 周辺での火災のとき	<p>ガスを止め、粉末消火器で消火するとともに、大量の水で容器を冷却する。</p> <p>周辺での火災のときは、容器を風上の安全な場所に移動する。移動できない場合は、容器及び周囲に散水する。</p>	
救急処置	<p>きれいな空気中に移す。</p> <p>火傷の場合は水を用いて患部を冷やす。</p> <p>回復が遅れるような場合だけでなく、それ以外でもできるだけ早く医師の処置を受ける。</p>	
特記事項 (人体に対する影響)	<p>純粋な水素自身には毒性はないが、濃度が高くなると単純窒息性の危険がある。</p>	
緊急通報例 119(消防署)	<p>1 どこで 市 町 番地 (株) 工場で</p> <p>2 なにが 「可燃性の水素ガス」が</p> <p>3 どうした 「漏れています。(漏れて火災になっています。)」 「消防車出動をお願いします。」</p> <p>4 時間は 時 分 頃 です。</p> <p>5 けが人は 「けが人がいます。救急車出動をお願いします。」</p> <p>6 私の名前は 工場 課の です。</p>	